

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成 22年 12月 27日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500063&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 1月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は認知症の主症状と周辺症状を理解し、利用者様個々の性格や日々の環境や体調における情緒変化や各々の生活歴などを踏まえて、其々に工夫を凝らしたケアをおこなっている。共同生活として、利用者様のエンパワーメントを職員によって無くしてしまうことがないように配慮しながらも、身体機能や物忘れの進行防止を生活に取り入れるため試行錯誤を繰り返している。地域に根ざした事業所として地域との協力も得られており維持・拡大にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームを開設して3年目を迎えた中で、利用者が短冊に書いた一文字「笑顔」から創り出された新しい理念「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を職員は常に意識しながら支援をしている。これは「言葉が少ない利用者は、笑顔が戻ってくれるように」、そして「いつも利用者の笑顔の絶えない施設になるように」と、気配りしながら利用者の支援に当たっている。又、事業所の所在地は、新興住宅地にありがちな孤立感はなく、町内会の一員として住民地域と交流するだけでなく、月に1回のリサイクルカン回収などや、夏祭りや災害時の訓練、老人会の活動など地域との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に基づき職員の利用者様に対するケアには一方的な立場での物言いではなく、会話(談笑)が常である。また、運営方針に基づき地域との交流を自由におこなう環境も実践されている。	事業所の理念「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」は、利用者が書いた夏祭りの短冊の「笑顔」をヒントに、全職員で話し合いつくり上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。町内会以外にも事業所行事の夏祭りや防災訓練には地域の方々からの多大な御協力をいただいている。	町内会の一員として毎月、リサイクル活動に参加している。事業所の夏祭りには地域の協力を得て交流を深めているほか、地域と協力し防災訓練、老人会との交流など多彩に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自では行なっていない。今年度は地域の居宅介護支援専門員研修会に事業所として御招待いただき取り組み内容をお伝えする機会を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動実績報告の場としている。事業所主催行事に対しての協力情報をいただいたり、地域のイベントの御紹介、利用者御家族様からの希望や助言をいただける場ともなっている。	2か月に1回開催し、区長や民生委員、利用者代表、市役所支所の課長等が参加され、事業所行事への協力依頼や、地域行事等への参加・交流する機会の情報提供や意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。他、申請書類提出等で市役所区支所に足を運んだ際に情報をいただいたり相談させていただくこともある。	市役所支所の課長が必ず出席し、困り事の相談や市役所からの連絡事項を知らせてもらうなどしている。利用者の生活保護の手続きといった関係で市役所に出向くことが多く協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関の施錠はしているが、それ以外では身体拘束はあり得ないとして職員が共通認識を持っている。	職員全員が身体拘束をしないケアを認識しケアをしている。玄関への施錠は日中していないがセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様にあり得ない事柄であるとし、職員は理解を深め共通認識を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内で機会を持ち理解を深めている。制度としての知識に加え、必要性が起きる状況というものが周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの不安や疑問点が出しやすいよう文書や口頭説明をしている。契約時に解約となる条件も説明している。契約締結後には、その可能性が出てきた段階で、あらためて説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満や苦情を表出できるよう職員は信頼関係の構築を優先的に取り組んでいる。家族や面会者からの意見が出しやすいように事業所内に質問箱の設置やサービス計画書更新時に意見や質問の記入をお願いしている。	会話の困難な方の意向や希望の把握に難しさがあるものの、利用者の日常の行動や利用者間の人間関係から推し測るとともに、ケアプラン更新時に家族から意見等を聞く様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月に一度職員会議を開催し、意見を聞いている。他、職員と共に介護業務にも入り介護現場を把握している。	月一回の職員会議を通じて職員の意見を聞き、意向を反映し業務内容の変更等を行っている。職員の多く意見等を聞くために、会議中の管理者は聞き役に徹している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割作成時に休日希望を毎月尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事や個々の介護などは職員主導でおこない管理者からの指示は極力控えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術は働きながらトレーニングしていくこととし自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり、職員は交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員との信頼関係が構築しやすい小規模という環境のもとで入居直後から訴えの表出をしやすい安心感の確保がされるケアが成されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会、文書での連絡をし不安ごとや求めていることの把握と関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援専門員を介しての入居申請が多く、その際に他サービスよりグループホーム入居が適していると判断されているが、申請時にあらためて現状や意向はお尋ねし、必要に応じて他サービスの情報も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との談話の中から食事の献立作成や行事の立案をおこなっている。日々の家事では食器拭きやテーブル拭きなど利用者様が主体のものがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特別な場合を除いて医療機関への通院援助を御家族様同伴にてお願いしている。他、利用者様の希望や利用者様の不安定な情緒の際には御家族様にも気分転換の支援協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会や高齢者の交流行事に利用者の出席ができるよう努めている。利用者様への面会も昔からの御友人などが継続的に来てくださる。	利用者の多くは町内出身者で、敬老会や老人会に参加し、馴染みの人との交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境づくりを進めていく中で、利用者様間の自発的な関わりあい、支えあいがスタッフも交えて日常となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば契約が切れても、必要に応じて医療機関入院中の方に衣類洗濯の支援をおこなっていたことがある。今後も其々の必要性に応じた支援や相談に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望や意向の把握は常時おこなっている。入浴したい日や嗜好品の所持、その日の過ごし方など多岐に渡っている。	日常的な会話の中から、「服が欲しい」、「美容院に行きたい」、「産直に行きたい」などといった希望や意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は本人、御家族に加え契約前に利用されていたサービス事業所からの情報収集に努めている。入居後も継続してお話を聞き、可能であれば面会に来られた御友人等からも談話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握をしている。把握と考察の中で日々支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は月に一度、担当した利用者のモニタリングを作成し、サービス計画に活かされている。サービス計画は素案を御家族様に郵送で送らせていただき意見や質問を文書で記入できる体制をとっている。	担当職員によるモニタリングを毎月実施している。サービス計画の原案を家族に説明し、意見等を汲み取り、サービス計画を作成している。なお、評価結果は家族に送り知らせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し、通院した記録や職員間の申し送りノートなども活用し情報共有とケアの検討・考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や要望や様々な都合に応じて行政への申請代行や保険関係書類の送付先変更などの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体へ唄や踊りの訪問を定期的にお願している。また、地域の敬老会への参加支援にも努めている。それぞれで昔からの知人と再会され、絆の再構築にもつながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様が契約終結を理由に病院を変更することはなく、其々かかりつけ病院への受診を継続されている。其々の病院とは定期受診以外にも事業所として利用者様の相談等させていただいている。	入居前から利用している医療機関をかかりつけ医とし、通院は原則として家族が対応している。家族同行のときは、日常生活の状況を手紙にまとめ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は居らず、医療連携も事業所として契約しているところはない。かかりつけ病院の看護師に其々の利用者様について助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、管理者以外にも病棟での洗濯物を引き受けることやお見舞を他利用者様と行なうことで入院先との情報交換や相談の機会をつくり関係構築につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書にて常時、治療を有する必要となった場合は退居の条件となると明記しており、それ以外であっても当方の医療関係職員の不在及び備えである機具、人員数における安全確保の限界点について、御家族様や医療機関様に説明させていただいている。	事業所には看護師等の医療関係者が配置されておらず、重度化し常時医療が必要となった場合等は対応できないため、終末期等の利用者は、対応が難しいことを家族に説明し理解を得ているとしている。	重度化や終末期の対応は職員体制等が大きく影響されるが、入居者の長期化等により重度化等が予想され、その支援の期待が高まることから対応の在り方等の学習等に今後を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を受講している。救急車の要請なども対応した職員は記録に残し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実践している。訓練時は地域住民様に参加をいただいている他、地域の自主防災会様より災害時の応援承諾を得ている。	近隣の組織である自主防災隊の協力を得ながら、消防署の指導を受けながら定期的に避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの人格と向かい合い、照らし合わせて考えていくことで、利用者様の個性の尊重を根付かせ、言葉掛けや冷静な対応に反映させている。	職員は、笑顔で利用者に向き合うことを基本に、支援が必要な時も利用者の尊厳を尊重し、周りの人に配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築。また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人の望む店とし、美容室に通う利用者様も居る。また、私物を職員と一緒に買い物に行く利用者様も居り、好みを自己決定していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きは入居者様の日課になっている。調理の下準備も職員からの依頼で共におこなうことがある。献立作成は日頃の会話の中で希望を取り入れた内容となっている。	献立は、利用者との会話の中からヒントを得て作成している。調理では利用者の得意な分野を担当してもらい、下ごしらえから調理、配膳、後片付けまで利用者とともにやっている。時には施設の農園からの収穫した野菜が食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゼロカロリー飴や食物繊維ファイバーを購入したり個別に水分補給に工夫を凝らしている。献立作成時には栄養バランスに考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導や介助が必要な利用者様への支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、様子観察からパターンを把握している。医師や介護用品業者からも助言をいただける体制が成されている。	利用者ごとの排泄のパターンを把握して、適時適切な支援をしている。頻尿や便秘についてかかりつけ医や介護用品販売業者の助言を得て、排泄の自立に向けた取り組みを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師への相談の他に職員は水分補給に力を入れている。運動への意識も加わって支援が強化されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日の午後に実施しており、定まった順番等はなく、その時間帯の中で希望に沿った時間に入浴できるような体制をとっている。	入浴は概ね13時30分から16時30分の間で毎日利用でき、日に5人以上の入浴希望があり、希望に応じた同性介助をしている。今後は入浴剤を用いて季節感など楽しめるようにしたいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室であり、就寝時間も特に定めてはいない。日中も居室や和室、ソファ上で個々に合わせて休息や昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は通院記録や処方説明書を全職員が閲覧しやすいよう体制を整えており、目的や副作用について周知されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きを役割としていらっしやる方、新聞でテレビ番組をチェックし他利用者様へ教えている方、買い物希望する方などいらっしやり其々に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に細かな時間割は存在せず、その日の希望に沿って職員が支援できる体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含まれている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	車は1台あり病院に行く利用者を優先しているが、近くの産直センターに花を買いに出かけたり、公園までの散歩や事業所の小さな農園の手入れなどと、天気が良ければ日常的に外に出るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を優先しており、現金を所持している利用者様もいる。各々に応じて所持金での買い物も可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話を希望される方に対して希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓を設置して景色からも季節感を感じ、人の往来や鉄道を眺める事ができる。他、職員が季節を感じられる装飾つくりや花を飾るといった支援をしている。対面式厨房からは匂いや音がホールに伝わりやすくなっている。	床暖房のため建物全体が暖かい。リビング前は大きな窓が設けられ近所の人の往来や近くを通る電車を眺めることができる。又、対面式厨房からは匂いや野菜を刻む音が聞こえ、生活感あふれた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ソファといったスペースがあり、居室以外での其々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみが設置されており、ベッドを含めて好みの物を持参いただき好みの空間をつくっていただけるよう配慮している。	ベットも含め、自分の好みや家族の意見を参考にしながら、家具等の位置を決めており、居室も床暖房で居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっているものがある。廊下や浴室、トイレには手摺りや立位バーが設置されている。		